

授業概要

家族が多様化し、家族をとりまく問題も複雑さを増している現在、保育や教育、福祉といった専門分野を目指す人々にとって「家族援助」「家庭支援」という観点が欠かせないものとなっている。講義では、まず、家族の役割や機能、関係性が時代とともに大きく変化していることを学ぶ。そのうえで、現代の家族が直面する諸問題、特に子育てをめぐる困難について、その背景や要因を探っていく。家族をエンパワーするために、どのようなアプローチが可能か、さまざまな観点から検討する。

授業計画

第1回	家族って何だろう～家族の定義、家族の見方の再検討
第2回	近代家族の誕生～家族規範の成立と変遷
第3回	企業中心社会と家族～戦後日本の家族のあゆみ
第4回	専門職として「家族」を支えるために～「家族福祉」という観点
第5回	現代の母親をとりまく状況～少子化時代の「孤育て」
第6回	母性神話と三歳児神話～子育て規範の変遷
第7回	育児不安・育児ストレス～育児不安研究から学ぶ
第8回	前半のまとめ
第9回	子ども虐待①～児童虐待防止法について学ぶ
第10回	子ども虐待②～母親支援という観点
第11回	子ども虐待③～ドメスティック・バイオレンスとの関係
第12回	子育て支援の政策動向
第13回	子どもの貧困～社会的支援の必要性
第14回	多様な性を生きる子どもとその家族の支援～ジェンダーの視点から
第15回	家族を支えるさまざまなネットワーク
第16回	定期試験

到達目標

「家族」は身近なものとされるだけに、自らの家族経験に縛られて、問題の本質が「見えなくなる」ことも多い。多様な家族のあり方、新しい家族への考え方に触れることで、視野を広げてほしい。「偏見」や「思い込み」にとらわれなくて、個々の家族問題へ向き合う態度を身に着けること、それを目標としてもらいたい。

履修上の注意

ノートは積極的にとることを求める。また授業時に課題を与え、それにこたえてもらう、ミニ・レポートの提出を求めることがある。

遅刻は交通機関等、特別な事情がない限り認めない。

予習復習

予習については、テキストを読んでくるよう指示するので、それを実践すること。

復習については、ノートのまとめ、作業課題など、その都度指示するので、学習に役立てること。

評価方法

定期試験試験（80％）と、授業時に提出を求めるミニ・レポート（20％）で判断する。

テキスト

『実践 家庭支援論』松本園子、永田陽子、福川須美、堀口美智子著（ななみ書房・2100円）